

鎮國守國
神社蔵 『御参内御行列帳』 『御在京中御平常御供建』 翻刻

岡田美穂

略解題

本紀要第三十六号、第三十七号、第三十八号に翻刻掲載した桑名市立中央図書館蔵『天保十一年御上京一件』^①に引き続き、桑名藩の史料のうち上京と行列に関わる資料を紹介する。

本史料を蔵する鎮國守國神社は、現在は三重県桑名市の桑名城跡に鎮座し、松平越中守家の祖で桑名藩第五代藩主となった松平定綱（鎮國公）、及び白河藩主で松平越中守家第九代の松平定信（守國公）を祀る神社である。鎮國神社は最初、定信によって当時松平越中守家が藩主となっていた白河の地に祀られ、その後文政六（一八二三）年の桑名藩への復封に伴い、翌七年桑名に遷祀された。また守國神社は天保四（一八三三）年に定信の子定永によって創祀された。鎮國守國神社には定信関連の資料の他、松平越中守家から奉納された資料、桑名藩家臣から奉納された資料等、創祀以来の白河藩及び桑名藩に関する貴重な資料が豊富に蔵されている。今回紹介する『御参内御行列帳』（以下『参内行列』）、『御在京中御平常御供建』（以下『平常供建』）は、ともに桑名藩家臣家であった柄田

家によつて奉納された柄田家文書に属する史料である。

まず、両史料の書誌的事項について記す。本史料はともに横帳の装丁である。どちらも長辺を縦に使い、左右に二分割して供建を記載している（ただし『平常供建』は最初に行列行逢時の留意事項等を記しているため、最初の半丁分は長辺を横置きにして記されている）。識語等がなく制作年月は不明ながら、両史料は同じ料紙を用い、筆も同筆と思われることから、ほぼ同時期に同じ人物によつて筆記された可能性が高い。²⁾

次に、『参内行列』及び『平常供建』の内容的特徴について触れたい。『参内行列』は、京都滞在時の行列の仕立てのうち、特に宮中に参内する折の行列の構成を記したものである。一方『平常供建』は、同じく京都滞在時に宮中以外へ出向く場合の行列の構成を記したものである。両史料とも、時代や人物名の記載がなく、いつ誰がどのような目的で上京した際のものなのかは現時点では不明である。しかしながら、本史料には特筆すべき特徴がある。それは、行列の役割の横に着用すべき装束等が記されている点である。この特徴によつて、どのような役割のものが何を着用していたのが判明し、行列の仕立てをより具体的に読み解く事が可能である。さらには『参内行列』と『平常供建』との比較を通じて、参内行列の特徴を浮き彫りにすることが可能となる。たとえば両史料について、下座見以下御徒士までの行列の構成を示すと、以下のようになる。

『参内行列』

先払御足軽	御口之者	御馬柄杓	御挟箱	鳥毛御鎗	御徒士
下座見	御馬	沓籠	御厩小頭	御参内傘	御徒士
先払御足軽	御口之者		御挟箱	御素鎗	御徒士

『平常供建』

下座見

御挟箱 烏毛御鍔

御徒士

御挟箱 御素鍔

御徒士

『平常供建』と比較すると、参内時には下座見と御挟箱の間に「先払御足輕」「御口之者」「御馬」「御馬柄杓」「杵籠」「御厩小頭」などが増え、また鎗と御徒士の中に「参内傘」が入る。藩主の参内時の行列という特殊な行列がどのような構成で行なわれたのかを詳細に検討できる資料は多くはなく、大変貴重である。

最後に、先に触れた『天保十一年御上京一件』(以下『御上京一件』)との関わりについて触れたい。『御上京一件』は、定信の孫で桑名藩主であった定和が、天保十一(一八四〇)年に幕府名代として上京参内した際の史料をまとめたものである。『御上京一件』には江戸・桑名から京都の道中の行列の準備等に言及があるものの、参内時および在京中の行列の仕立てに関する詳細な記載がない。『参内行列』および『平常供建』の両史料は、天保十一年の行列のものであるかどうかは不明ながら、桑名藩家臣家の柄田家の文書であるため、桑名藩で実際に行なわれた、あるいは参考とされていた行列仕立てだと予想され、天保十一年の上京に関して、行列の仕立ての具体像を推測するのに十分な史料である。

以上のように、両史料は桑名藩史、また大名行列の研究にとって大変貴重な史料といえる。

注

1 岡田美穂・飛石眞理子「桑名市立中央図書館所蔵『天保十一年御上京一件』翻刻と解説(一)〜(三)」『中京大学図書館学紀要』第三十六号(二〇一五年二月)、第三十七号(二〇一六年十二月)、第三十八号(二〇一八年三月)

2 『参内行列』『平常供建』はともに鎮國守國神社所蔵資料のうち柄田家文書に属する。桑名市教育委員会編『桑名松平伝来資料史料調査報告書―鎮國守國神社所蔵資料目録―』(桑名市教育委員会、平成十六年三月)の分類によれば、柄田家文書は「多くは近世後期から明治期にかけてのもので、柄田平常により筆記されたものである」(25頁)らしい。また、『参内行列』及び『平常供建』は、『諸行列次第録 十六』と題された表紙を付けて全十六冊が合綴された状態で保管されているが、合綴史料中、「柄田平常」の名が表紙に記される『定永公桑名城御拝領御初入御行列帳』『定永公江戸を桑名迄御上京御行列帳』等と料紙や記述形式等が比較的近く、どのような関係にあるのか大変興味深い。

付記

貴重な資料の翻刻掲載をご許可くださった鎮國守國神社宮司様に厚く御礼申し上げます。

史料翻刻

翻刻凡例

- 一、供建部分の翻刻は読者の便を考慮し、行列の進行順に並べた。
- 二、合字は開いて仮名表記に改めた。

【史料翻刻一】『御参内御行列帳』

御参内御行列帳

○高張挑灯
 先払御足軽
 御馬柄杓
 御足軽人

麻上下
 京雇
 下座見
 厚総懸
 御馬

○高張挑灯
 先払御足軽
 御口之者

麻上下
 白張差

網代御紋付交

白張差

紋付空板 麻上下

○御挟箱

手代共 式人

○烏毛御槍

手代共 式人

白張差 麻上下

沓籠持人 御厩小頭

○手提灯

○御参内傘

手代共 式人

白張差

網代御紋付交

白張差

紋付空板 麻上下

○御挟箱

手代共 式人

○御素槍

手代共 式人

麻上下 同 同 同 同 同 同 同

御徒士 同 同 同 同 同 御徒町役 御徒小頭

○高張挑灯 御徒頭

布衣

麻上下 同

御徒士 同 ○

○御長刀

手代共 式人

紋付空板麻上下

麻上下 同 同 同 同 同 同 同

御徒士 同 同 同 同 同 御徒町役 御徒小頭

○高張挑灯 御徒頭

布衣

布衣

素袍

熨斗目麻上下

熨斗目麻上下

熨斗目麻上下

熨斗目麻上下

麻上下

○御側役

○御大小性

御大小性

御大小性

御大小性

御横目

御深沓持

御足輕

手代人

○高張桃灯○

素袍

布衣

熨斗目麻上下

御大小性

御小性

御大小性

御駕籠

御陸尺

拾人

素袍

布衣

熨斗目麻上下

御大小性

御小性

御大小性

○高張桃灯○

布衣

素袍

熨斗目麻上下

熨斗目麻上下

熨斗目麻上下

熨斗目麻上下

麻上下

○御側役

○御大小性

御大小性

御大小性

御大小性

御手廻頭

御浅沓持

御足輕

手代人

白張差

黒羅紗羽折

紋付空板麻上下

麻上下差

白張差

御草り取

御鎗

手代人

御手廻小頭

御挟箱

手代人

白張差

奉納御草り持也

○手桃灯

○御長柄傘

手代人

白張差

逆木

紋付空板麻上下

麻上下差

白張差

御草り取

御鍵

手代人

御下横目

御挟箱

手代人

○手桃灯

十徳差

御坊主壺人

白張差

御口之者

御馬具才判

麻上下

御徒士 壺人

白張差

御簀箱 弐代共 御茶弁当 弐代人

紺無地空板

○同台持 壺人○

紺無地空板

御拝領御馬具拭

御牽馬

白張差

御口之者

△印より

ツミケ

△印より 白張差

御口之者

麻上下

御馬柄杓 御足輕壺人

白張差

杏籠 壺持人

○ 御召替馬

御鞍覆箱

白張差 弐代共 壺人

白張差

御口之者

麻上下

御馬柄杓 御足輕壺人

白張差

杏籠 壺持人

御貸人
自分挑灯

麻上下 同

○口付

若党 若党

槍

長柄傘

○口付

若党 若党

槍

長柄傘

御貸人
自分挑灯

麻上下 同

布衣

御用人騎馬

○御貸人

沓籠

御用人騎馬

○御貸人

沓籠

自分挑灯

布衣

自分挑灯

麻上下 同

○口付

若党 若党

挟箱

草履取

○口付

若党 若党

挟箱

草り取

御貸人
自分挑灯

御貸人
自分挑灯

麻上下

麻上下

麻上下

押御足輕 忝人

押御足輕 忝人

又供 又挟箱

供鎗

押御足輕 忝人

○手挑灯

○手挑灯

○手挑灯

此間置

○

○

供鎗

麻上下

麻上下

麻上下

押御足輕 忝人

押御足輕 忝人

又供

又挟箱

供鎗

押御足輕 忝人

○手挑灯

○手挑灯

○手挑灯

御駕籠触若党草り取銘々□也并挟箱被為持可事

供鎗之義ハ御徒頭御側御大小姓忝人為持可申事

麻上下

押御足輕 壹人

○手挑灯

○

○

○

雨具人

此間置

合羽籠

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

釣

釣

釣

手代共二

人ツ、

麻上下

押御足輕 壹人

○手挑灯

合羽籠持手代とも式拾四人

麻上下

押御足輕 壹人

○手挑灯

御跡乘

同

合羽籠

同

麻上下

押御足輕 壹人

○手挑灯

以上

【史料翻刻二】『御在京中御平常御供建』

御在京中御平常御供建

一 於道中御掇家方親王門跡方御行逢

之節御先片寄セ御道具伏セ御駕籠御通り

過候後直ニ御通行被遊候尤別公家衆ハ片

寄之俣ニテ御通行被遊候事

一 御掇家方ニ被為人候節ハ御門前雨露外

にて御下乗被遊候事

一二条御城

御拜見之節同処登御門より被為人橋

詰ニテ御下乗被遊候事

御駕籠触 九人

御挾箱 持人壹人

手代壹人

御草履取 壹人

御長柄傘持 壹人

押 貳人

又供草り取 十人

外二

御用人 貳人

御留守居 壹人

御殿内の供

御用人 貳人

御留守居 壹人

御側役 壹人

右之通ニ有之候併相違之義も有にて候

ハ、其節御用人より可被達候事

一 御供方先後之義御行列こと也相心得

可申事尤先後代り之節は御供

触にて相心得可申事

一 御供触之義は江戸表ニ准シ触ノ列前御供

触ノ中忝番触差出ニ番触之義は

触に差出不申候間触出列次にて相心得

可申事

一 御供人数之儀兼て申達之通御人

少之事ニ付御役々勤劇は有之候得

とも時宜ニより有功同□ニ相成候間

厚相心得可申事

花平緒□小輪貫一ツ

網代

紋付羽織

紋付羽織

麻上下

白上リ羽織袴

御挟箱

手代人共

烏毛御鍮

手代人共

○御徒士

同

御徒町役

御徒小頭

京雇

下座見 忝人

麻上下

御徒士

同

網代

紋付羽織

紋付羽織

麻上下

御挟箱

手代人共

御素鍮

手代人共

○御徒士

同

御徒町役

御徒小頭

麻上下

麻上下

同

同

同

羽織

御徒頭

御大小姓

御大小姓

御大小姓

御横目

御草履取

壹人

紋付羽織

御駕籠

羽織

御長刀
手代共 貳人

御陸尺

○御長柄傘

手代共 貳人

麻上下

麻上下

同

同

羽織

御徒頭

御側役

御大小姓

御大小姓

御手廻頭

御草履取

壹人

寺社參詣之節ハ御駕籠觸之分

熨斗目差用之事

黒ラシャ羽折 紋付羽織

紋付羽織

御鎗

手代共 貳人

御手廻小頭

御挾箱

手代共 貳人

御坊主

壹人

○手挑灯

紋付羽織

紺無地空板

○

御裳箱

手代共 貳人

御茶弁当

持人 貳人

台持 壹人

逆木 紋付羽織

紋付羽織

御鎗

手代共 貳人

御下横目

御挾箱

手代共 貳人

○手挑灯

御馬具才判

麻上下

御口之者 御徒士 忝人 御口之者

御馬柄杓

御足輕 忝人

羽織差

御拝領御馬具懸

御牽馬

御召替馬

御鞍覆箱

手代とも
忝人

紺無地空板

御口之者

御口之者

御馬柄杓

御足輕 忝人

羽織差

紺無地空板

沓籠持 忝人

御貸人
自分挑灯

○口付 若党 若党 鎗

長柄傘

御跡乘

御用人騎馬

沓籠

紺無地空板

沓籠持 忝人

御貸人
自分挑灯

○口付 若党 挟箱

草履取 ○印より

ツミク

○印より
御貸人自分挑灯

○口付 若党 若党 鎗

長柄傘

中押御足輕 壹人

黒緒梯輪貫丸羽織

○手挑灯

御跡乘

御用人騎馬

沓籠

御貸人自分挑灯

○口付 若党

挾箱

草履取

中押御足輕 壹人

右同断

○手挑灯

黒緒梯輪貫丸羽織

中押御足輕 壹人

又供

○手挑灯

紺無地空板

此間余程置

○

御用挾箱

手代共
式人

黒緒梯輪貫丸羽織

中押御足輕 壹人

又供

○手挑灯

又挟箱 御鎗

○

○御鎗 合羽籠 同 同 同 同 同 同 同 同 同

○

手代とも

無格四人

又挟箱 御鎗

御駕籠触若党草り取銘々□□并挟箱も銘々

為持可申供鑑之義ハ御徒頭御側役御大小姓

忝人為持可申事

黒緒梯輪貫丸羽織

押御足輕 忝人

○手挑灯

御跡乘 同

合羽籠 同

黒緒梯輪貫丸羽織

押御足輕 忝人

○手挑灯

以上